令和８年度大磯町教育委員会第６回定例会議事録

１．日　時　　令和８年９月17日（木）
開会時間　午前９時30分
閉会時間　午前11時22分

２．場　所　　本庁舎４階第１会議室

３．出席者　　武　沢　護　　教育長
櫻　田　京　子　教育長職務代理者
鈴　木　孝　善　委員
吉　田　浩　二　委員
諸　岡　紀　子　委員
藤　本　道　成　教育部長
須　田　幸　年　学校教育課長
高　尻　恭　子　生涯学習課長兼生涯学習館長兼図書館長
北　水　慶　一　生涯学習課旧吉田茂邸利活用担当課長兼郷土資料館長
齋　藤　永　悟　町民福祉部長
小　林　琢　哉　子育て支援課長
（こども家庭センター長兼子育て支援総合センター所長兼子育て支援センター所長）
鳥　海　淳　一　学校教育課主幹兼教育指導係長
上遠野　聡　（書記）学校教育課副課長兼教育総務係長

４．欠席者　　０名

５．傍聴者　　６名

６．報告事項
報告事項第１号　「大磯図書館まつり」の開催について
報告事項第２号　いじめに係る対応等について

７．その他

（開　会）

教育長）　皆様、おはようございます。本日はお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。
それでは、ただいまから、令和８年度大磯町教育委員会第６回定例会を開催いたします。
本日の会議の内容ですが、報告事項２件でございます。
本日は５名、全員出席していますので、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第３項の規定により、定例会は成立しました。
なお、本日は傍聴を希望される方が見えていますので、大磯町教育委員会会議規則第12条及び第17条の規定により、傍聴を許可します。

暫時休憩します。

～　休憩　～

教育長）　休憩を閉じて再開します。

それでは、はじめに「令和８年度第５回定例会議事録」の承認をお願いします。

まず、「令和８年度第５回定例会会議事録」は、お手元に配付しました内容のとおりでよろしいでしょうか。

（異議なしの声）

教育長）　異議なしの声がありましたので、「令和８年度第５回定例会議事録」については、ご承認いただいたものとします。続きまして教育長報告をさせていただきます。

諸行事につきましては執行状況表のとおりです。今後の予定につきましては、執行予定表をご参照ください。

教育長）　私から、夏休みを含め、今までの町の様子を簡単にお話いたします。

一つは、議会の件です。

議会は、今現在９月の本会議が開かれていまして、一般質問等、教育委員会に対していろいろとご意見をいただいています。９月下旬までが本会議で、大きく話題になったことをお知らせすると、まず、中学校給食の件がありました。これは喫緊の課題だということで教育委員会としては思っていると答弁しています。

それから、いじめ、不登校の件も、去年の決算のことなどで、議員の方たちから、いろいろとご意見をいただきました。このことはやっぱり我々の非常に重要な課題と考えています。

それから、夏休み全体のこどもたちの様子ですが、おかげさまで大きな事故もなく、それから暑熱対策によって、事故もなかったということで、非常にこちらとしては安心しています。

それからもう一つ、ラシンから３名、お子さんが毎年のように来ていたんですね。トロントの近くかな。北米、トロントはカナダですけれども、ラシンにジョンソンの本社があった関係で、ずっと交流しているのです。あとは、デイトンとも。デイトンというのは、ＮＣＲの関係で交流をしているということで、７月の下旬だったかな、ラシンのお子さんたち、３人と、私が会う機会があったんですね。

こどもたちとあまり交流がないようなことだったので。ホームステイに行って、箱根に行ったり、いろいろなところに行って花火を見たりということだったんだけれども、何か小学校・中学校のこどもたちと交流できるようなプログラムができればなと思っています。来年度以降、その辺、担当は違うんですよね、ラシンの国際交流は。

教育部長）　担当は総務課になります。

教育長）　総務課ですよね。なので、少しでも交流できたらいいかなと思いました。

諸岡委員）　学校にも通ってたのですか。

教育長）　学校には通ってないですよね、小中学校には。

教育部長）　行っていません。

教育長）　行かないんですよね。だからちょっと、もったいないなと。

諸岡委員）　なかなか難しいですね。前、コミュニティ食堂とかにきてもらってとかはあったん

ですけど、ちょっとゲストで。ただ、それは関係者とつながりがあったから呼べただけで。そこが切れちゃうと続かない。

教育長）せっかくあるからね。

職務代理）　年齢的には高校生ですよね。

教育長）　年齢は高校１年生です。

職務代理）　大磯町から派遣する子たちも高校生だから、年齢がどうしてもちょっとずれている感じが。

鈴木委員）　小中学生じゃなくて、高校生と。

職務代理）　大磯高校と。

鈴木委員）　大磯高校あたりとね、何かやっているのかね。

吉田委員）　ある自治体では募集をして、そしてお互いにホームステイで。だから、こちら側が海外に行くときには、自治体がお金をかなり出すので、その代わり、参加する保護者の方もお金を頂くんですけど、それでも抽選でかなり人気があって、面接をして通った人には、何人かですかね、５、６人で行って、向こうの子たちも５、６人来て。お互いに家庭のほうにホームステイするという。そういうのをやっているのは聞いたことあります。

諸岡委員）　でも何かね、知らないですよね、全然ね。もったいない。

教育長）　ちょっとあんまりね。もったいないよね。それもちょっと課題として。

諸岡委員）向こうってどうやって過ごしていますか。海外に行った先で、その子たちはどうやって過ごすんですか。

吉田委員）　ホームステイ。すごく勉強になるそうです。

教育長）　オーストラリアなんかだと、南半球だと、季節が反対だから、ちょっといろいろと参加できるんです。

最後は、８月の下旬に文部科学省が後援している、多様な学びカンファレンスというのがあって、テーマが不登校だったんですね。具体的に戸田市教育委員会と、それから稲城市教育委員会と、ベネッセの中学校をつくった人とかが来て、いろいろと面白い取組みがありました。

特に戸田市は、民間を入れているんですね、不登校に。それから、ベネッセはオンライン、AIに力を入れているというので、今回、議会でも不登校とかそういう話があったので、いろいろな手立てを考えていきたいなと。そういうカンファレンスがあったということご紹介いたします。

それでは、本日までの行事の執行状況ですけれども、よろしいでしょうか。

鈴木委員）　８月27日に大磯式不登校対策に向けての町内関係機関との連絡協議会がございましたね、研究所で。それで、大磯式というのはどんな形なのかということを聞きたいのと、関係機関とどんな内容が話題になったのかを、大まかで結構ですのでお聞きしたいなと。

大磯式というのは特別だということだから、お聞きしたいと思います。

学校教育課主幹）　一昨年度から大磯町と二宮町にこどもの居場所をつくってくださっている諸団体がありまして、そうした方々と連携をするような流れができています。

昨年度は、児童生徒指導担当の教員、そして教育相談コーディネーターの会がありまして、タイアップして民間の居場所づくりをしている機関の方々と共同で会議を持ちました。

それから、その会議の後に、町教委と教育支援室つばさ、そして、民間の団体の方々を交えて大磯町に在住するお子さんの情報交換や、さらにはそのお子さんを中心に、町教委や民間の

団体等々にも連携できるかということを意見交換しています。

昨年度の成果としましては、そうしたお子さんを受け入れてくださっている団体を、一つのリーフレットにご紹介をまとめて、各ご家庭に発信を行いました。今年度についてもその後の経過、そしてまた、次にできることということを一緒に話し合いを行ったのが、８月の会議になります。

そうしたところが、大磯としての取組みとして、大磯式という言い方をしています。

以上です。

鈴木委員）　話の中で、民間団体の通いの場、こどもたちを受け入れる、そこで、そのこどもの状態にもよりますけど、できれば学校に登校できるように持っていければ一番理想かと思うのだけど、民間団体とその辺の方向性というのは共有できているのか。

学校教育課主幹）　まず、不登校の対策として現状、今の町教委としての考え方は、国・県の考え方と歩調をそろえて、こどもたちにとって一番良い居場所、学びの場は何かというふうに考えていますので、必ずしも学校復帰とは考えておりません。あくまでお子さんと保護者が心理的な安全性を確保しながら学べる環境をつくっていくというようなスタンスでいますので、そのような点で民間の団体の方々もお話をしています。それで、できることは何かということをそこで話し合うような流れです。

鈴木委員）　その辺は私としても、自宅に籠もっているよりも、やはりそういう場所に行って学べるということは大事なことだと思う。

ただ、いろいろなことを考えて、もしこどもの状態がよければ、学校にできれば登校できるような方向性も一度つくってもらいたいなと。個人的なお願いです。

学校教育課主幹）　ありがとうございます。

教育長）　ほかに、いかがでしょうか。

職務代理）　１点質問なんですが、８月の末から、GIGA更新にかかる研修会が結構開かれていて、具体的にどういう内容の研修会なのか教えてください。

学校教育課主幹）　まず、８月の下旬のICT関連の研修会については、この度GIGAの関係の機器の更新がございまして、新しい機器を導入したことによる先生方への研修になります。

主に扱い方や活用の仕方について学びまして、まず、アプリケーションソフトの使い方、そして生成AIの活用の仕方、あとは電子黒板等の機器ですね、大型提示装置の扱い方、これらの３種類を、初心者コースと、中級者コース使い慣れている方のコースに分けて、各学校区で開催するような形で実施いたしました。

先生方については、成果としましては非常に有用な時間になったということでアンケートもいただいております。

以上です。

教育長）　実は私も大磯小学校の講習に参加してみたら、大磯小学校の教職員って若いんですよ。

そのほとんどが中級にいました。一方、初級の場所に行ったら、結構年配のシニアの方たちが、手取り足取りやってもらったんだけども、かなり高度なことをやっていました。

週案を、AIを使った書き方とか、講師もまた慣れた人で、非常に丁寧にやって、熱心で、大磯小・中、国府小・中と全て、半日くらいで合計２日間に分けて。

来年もやるんですよね。来年はやらないのか。

学校教育課主幹）　今の段階はまず導入研修ですので、それを行いまして、生成AIについては、

生成AIの伴走的支援というような形で事業化していますので、それは来年も実施する予定です。

先生方が自走して、AIを活用して、それぞれのお仕事で使えるようになるというところまでを、期間限定ですが、このような形で事業化しています。

以上です。

教育長）　感覚的には、かなり働き方改革の支援になるかなという気がしますので、やっぱり積極的に使う方向で。著作権の問題点とかは、いろいろと問題点があるので、その辺もちゃんと講師が話をしていましたので。

多分、今後はもっとこどもたちがどう生成AIに対応していくかということが次の課題かなという気もする。特に中学生くらいになると宿題を全部生成AIにかけちゃうとかというのがあるので。大学生も高校生ももう生成AIでレポートを全部やっちゃうので。そういう問題点をこれから少しずつ考えていく必要があるかなと思います。

それで、この間のカンファレンスに行った戸田市が、民間に不登校の対策を入れているというのは、NPOがオンラインでいろいろな対応をしている。だからこどもたちは、まずは家にいて、オンラインでその専門家にいろいろとアクセスすることもできるし、教育研究所もアクセスできるし、こどもがいろいろな多方向のことが可能になっているということが、ホームページを見ていただければ、戸田市はなかなか先進的な取組みをしているなという印象でした。これから参考にしていきたいなと。

鈴木委員）　引き籠もった子を家から一歩出す。そこが一番難しいところで。そういうところ、戸田市の例だとか、そういうのを参考にして、大磯町にもきっと何人かいると思いますから、救えるように、参考にして手立てをみんなで取っていけばいいんじゃないかと思いますけどね。

教育長）　関係することでもいいですし、この行事の中で何かご指摘していただけるようなことがありましたら、お願いします。

諸岡委員）　ちょっと戻っちゃうんですけど、戸田市では、こどもたちがアクセスしたいときに大体対応できるような時間帯なんですか。

教育長）　ちょっと具体的にその辺がよく分からないんだけど、パネルディスカッションの中で、戸田市の指導主事がいて、NPOのサポートしている人がいて、あと稲城市の教育長がいて、それでパネルディスカッションをすると。

諸岡委員）　ただ、夜遅くとかに、もやもやっとしたりするじゃないですか。だから、そういうところまでやるのかなとか。

たぶん難しいですよね、やっぱり。

職務代理）　今度東京で教育委員会の集まりがあるじゃないですか、全国的な。あそこでも何かそういうの話に出るのではないですか。

諸岡委員）　どこも課題なんですね。

職務代理）　まだ過渡期だから、結構いろいろなことをやっているというのをまず知るというのが大事かなと思います。

教育長）　お金もかかるし。

諸岡委員）　多分、一歩出るのが苦しいから、取りあえず誰かとコミュニケーションというか、そういうところにヘルプが出せる形を整えてあげたいですよね。

教育長）　ベネッセはやっぱり私立だからお金がかかるけど、ベネッセ高等学院というのをつくって、ベネッセ高等学院中等部とつくって、そこで不登校のこどもたちを今。ただ、お金はか

かる。そこではAIも活用している。

職務代理）　通信制は増えていますよね。大学もあるし。

教育長）　ということで、よろしいでしょうか。

次に、８月定例会から本日までの間に、教育長に委任された事務で重要なものに関すること専決した事項に関することについての報告はありません。

教育長報告は以上です。

【報告事項第１号「大磯図書館まつり」の開催について」】

教育長）　続きまして、報告事項に移ります。それでは、報告事項第１号「大磯図書館まつりの開催について」、事務局より報告をお願いします。

生涯学習課長）　報告事項第１号、図書館まつりの開催について説明いたします。裏面をご覧ください。第 25 回大磯図書館まつりの開催についてです。

大磯図書館まつりは、古本市等の催し物を通して、幼児から高齢者まで地域のふれあいの場として図書館が身近な存在になるよう開催するものです。日時は、令和８年10月18日、日曜日、午前９時から午後２時、大磯町立図書館本館を会場とします。

主催は、大磯町立図書館。共催は図書館ボランティアで構成された大磯図書館まつり実行委員会です。催し物は、古本市、スペシャルおはなし会、図書館クイズ、工作教室、書庫見学、絵本作家・水野はるみ展を実施します。詳細は、記載のとおりとなります。

報告は以上となります。

＜質疑応答＞

教育長）　ただいま事務局から報告のありました件につきまして、ご質問、ご意見があればお願いします。

吉田委員）　スペシャルおはなし会というのはどのような内容なのか少し教えてもらえますか。

生涯学習課長）　まだ詳細は決まっていないんですけれども、ボランティアさんを交えていろいろ企画を練っているところです。

図書館では多くのボランティアの方には、様々なご協力いただいています。１回、図書館のおすすめの本とかそういったものを入れ替えるときのお手伝いをしていた
だいたりですとか、図書館の中にいろいろ、本を見やすいようにスタンドを作ったりとかしているんですけれども、毎月本当に大勢の方が来ていただいて、展示替えのお手伝いをするとともに、この図書館まつりというのを約半年かけて準備をしているところです。

図書館では毎月大量の本を新しく購入して本棚に並べるんですけれども、そうすると結局入りきらない本、あとあまり人気がない本、あとはどなたかが亡くなって本を引き取ってほしいとか、そういったご相談も受けまして、限られたスペースの中で全部配架するということはなかなか難しいので、その本をいろいろ、図書館司書が選別して、じゃあ今年度はこれだけ図書館まつりに出そうというのを決めます。それで、図書館まつりの日に古本市のような形でその本を無償提供して、その際の寄附金でまた新たに児童向けの本を買うというようなことをここ数年ずっと続けておりまして、この古本市というのも開催日は１日だけなんですけれども、中にはこの日に来れなかったという方もいらっしゃるので、その後１週間くらい、その古本市だけは続けるみたいな、そういうような形でイベントを開催しておりますので、もし時間がありましたらお越しいただきたいなと思います。

以上です。

教育長）　ほかにございますか。

これ、やはり議会でも読書、こどもたちと図書にかかる予算はどうなのかというのがご質問、あったと思うんですけど、こどもたちとの、学校教育と図書館教育というのはやっぱり、うまく連携をしていくと良いですね。この図書館まつりは、こどもたち、学校とはあまり関係ないんですかね。

生涯学習課長）　図書館まつり開催前に、学校図書室に除籍図書の提供をしています。チラシのほうは置かせていただきますけれども、日頃の学校との交流については、学年を決めて図書館に皆さんで来る、それを受け入れるということをやっていまして、保育園、幼稚園もありますし、小学生も来ていただいて、半日、図書館の１階も２階もいろいろ歩き回って、どんなことができるのか。調べるときにはここでこんなふうに調べるんだよとか、あと、場合によっては２階で映画も見れるんですよとか。いろいろご紹介をさせていただいておりますので、そこでぜひ図書カードをつくって、毎週のように来ていただきたいなと。

教育長）　国府のこどもたちも来るんですか。

生涯学習課長）　はい。バスで来ます。

諸岡委員）　そのタイミングでやっと初めて図書カードを作る子もいたりするんです。幼稚園のときとかに聞くと、まだ行っていないという子が、そういうときにいいきっかけにさせてもらっています、体験の日は。

生涯学習課長）　その図書カードを持つのもそうですし、幼稚園や保育園に置いてある絵本の本棚のほうも団体貸出という形で、図書館職員が園に図書を運搬して、中身を入れ替えて、目新しい本を目にして読書に関心を持ってもらえるようにというようなこともやっております。

鈴木委員）　図書館まつりですけど、古本市とかクイズとか、いろいろありますけど、こどもたちが例えば古本を販売する、そういったときにお手伝いをするとか、そういう場は設けてありますか。

生涯学習課長）　今のところそういったことは予定されていないと思うんですけれども、そういった活動も、もしかしたら取り入れられるかもしれません。

鈴木委員）　実はね、ぷちおおいそが10月に予定されています。そうすると、こどもたちがいろいろな店や、職業を体験して、いろいろな人に関わる、宣伝をすることがありますよね。その辺りの考え方で、やはりこういう古本市のときにこどもにも手伝ってもらって、そして一緒に販売する。これ面白いよと。こどもたちが紹介する、そういう場があってもいいんじゃないか。また、クイズだとか工作も、やはりこどもたちのボランティアみたいなのを募集とか呼びかけてもらうと雰囲気が違ってくるんじゃないかと。

そういう経験なんですね。学習指導要領がここで変わってきて、30年で変わるけど、その時にやはりこどもたちが様々な経験、それが大事だと思うんですね。ですから、生涯学習課の行事が、生涯学習だから、多少こどもたちも関わりがあるかもしれないけど、学習指導要領の方向性、それを汲んでこの事業を少し工夫してもらうと有難いなと思います。

生涯学習課長）　ありがとうございます。こどもたちの参画ですね。

鈴木委員）　何人来るか分からないけど、１人でも２人でもいいから。

生涯学習課長）　分かりました。ありがとうございます。

教育長）　各学校には、図書委員会というのがあるんじゃないですか。小学校、中学校とか。好

きな子が、図書委員会にいるのではないですか。

生涯学習課長）　センスが光る子がいるかもしれませんね。

諸岡委員）　昼休みとか、中休みの貸出側をしてくださったりとかするのです、図書委員さんが。それで、小さい子にこうしてね、ここのバーコードを見せてね。何日までに返してねという、その図書館の先生みたいなことをできたりする、そのバーコードの読込みがしたくてなる子もいるし。

鈴木委員）　そういう子に入ってもらうとちょっと雰囲気が、大人がずっと並んでいるところに行くように、少しこどもたちの協力を得て、そうすると雰囲気が変わってくるんじゃないですか。

生涯学習課長）　今の実行委員さんたちに投げかけてみます。

実は、夏休み中の図書館ボランティアの活動日には、何人かお子さん連れの方がいらっしゃったんです。

なので、そういったことも多分できるんじゃないかなと私も思いますので、前向きに。

諸岡委員）　そうですね、ボランティアさんのお子さんとかね、置いて来れないからというの、言ってくれれば。

教育長）　お兄さん、お姉さんの働きぶりを下のこどもたちが見て、私も次は、来年やろうとか思うかもしれないですし。

生涯学習課長）　楽しみです。そのようにさせていただきたいと思います。

教育長）　ぜひ図書館で工夫してください。

職務代理）　カウントするのが難しいと思うんですけど、何人くらいここに参加されているんですか。

生涯学習課長）　次回のタイミングでちょうど報告をさせていただきますので、その時に。図書館まつりの各ブースでは来場者数のカウントを行います。この数字をご報告させていただきます。

職務代理）　ありがとうございます。

何か私、結構毎年のぞくんですけど、親、保護者がこどもを連れてくるような雰囲気がすごく多いなと。こどもが自ら行く感じじゃないなというのがちょっと感じていたので。

生涯学習課長）　どうしても親御さんがそういうことに関心があるとお子さんも一緒に来るという形になります。

職務代理）　だから、保護者がこの情報をもっと得られると、連れて行こうかなって、もしかするともっと思うかもしれないなと思ったので、広報するときに、駅とか、結構目につくようなところにやるといいかもしれないなと思いました。

以上です。

生涯学習課長）　ありがとうございます。

教育長）　今、本離れが激しいですから。本をね、読まないからね、こどもたちは今ね。

では、図書館まつりの報告でございましたけれども、よろしいでしょうか。

それでは、報告事項第１号はこれで終わりにいたします。

【報告事項第２号「いじめに係る対応等について」】

教育長）　次に、報告事項第２号「いじめに係る対応等について」を議題といたします。

報告事項第２号については個人情報を取り扱う案件となりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第７項及び大磯町教育委員会会議規則第12条の規定により、秘密会としたいと思いますが、いかがでしょうか。

（異議なしの声）

教育長）　ご承認いただきましたので、報告事項第２号は秘密会とします。

～　休憩　～

教育長）　休憩を閉じて再開します。

ただいま、秘密会において、報告事項第２号「いじめに係る対応等について」の報告がありましたことをご報告いたします。

【その他】

教育長）　次に「その他」について、何かございますでしょうか。

鈴木委員）　栄養士さんはいろいろこどもたちに対して栄養指導とか、何かやっているんじゃないかと思うんですけど、中学校はどうなっているのかなということを聞きたい。

なぜかというと、やはり自分はね、こんな状態になってつくづく感じたのは、いわゆる食育ってすごい大事だということ。体をつくっていく栄養とか、それから塩分の取り方だとか、そういうことを考えたときに、やはりこどものときにきちっと食育を。将来、何十年後かにある意味大変な思いをするから。

そういう面で、小学校は学校給食で栄養士さんが時々こどもたちに話をしたりしてるんじゃないかと思うんだけど、中学校は学校給食をやっていないから、どうなのかなということをお聞きしたい。情報があったらお願いします。

学校教育課長）　現状としては、中学校昼食に関してはやっぱり課題があるという点で認識しております。

当然、給食をやる方向であれば、小学校と同じような、その食育の視点で、栄養面だとか発達段階に合った施策は必要だというふうに考えています。

この後、進捗を少しお話はしようと思っています。その中で検討を重ねていく中で、当然今委員のおっしゃっていたその食育の部分というのは非常に核になる部分だというふうに考えております。あとは補助金の関係だとか、どこまで形をつくって関係者に納得いただいて進められるかということを念頭に置きながら進めていこうと思っていますので、よろしくお願いします。

鈴木委員）　学校給食の中学校の昼食は進めていただいて、ただ、現実的には来年度あたりもね、もしその食育が、こどもたちは弁当を持ってきていますから、そういう面でも例えば小学校の栄養士さんが中学校へ行って少し話をしてもらうような。何かそういう教育の部分ではちょっと先にやっておいていただきたいなというふうに思います。

学校教育課主幹）　授業については、私が補足しますと、大磯町に栄養教諭が１名いますので、栄養教諭の食育のネットワークで、支援校への派遣というのはあります。

これまでですと、当然家庭科が中心になるんですけど、家庭科の調理実習の際に派遣要請が

出て、そこで栄養教諭がこどもたちに関わる、あるいは説明してもらうというような機会はあります。ただし、小学校との大きな違いが、やっぱり日常の給食を通じて食育につなげることは、なかなか回数が少ないので、どうしても中学校はそうした情報が不足してしまうかなと思います。

一方で、大磯町の長所は、小学校給食で関わってくださった栄養教諭や栄養士がいますので、そういう方々が中学校にも関われるというのは非常に強みだなと思っています。同じ方が一貫してお話ができるというところを大磯町で大事にすべきなのかなと思いますので、ご意見いただきましたのでそれをどう反映できるか、学校と一緒に考えます。

鈴木委員）　よろしくお願いします。

教育長）　あと、家庭科の授業ですね。

諸岡委員）　保健室の先生もたまにお手紙で、朝、朝食は抜かないようにとか、こういうものを取ろうねとかを教えてくれたりする。頻繁に、もしかしたら栄養士さんからのね、お手紙を読むかも分からないけど、出してもらうというのは大事かもしれないですね。

教育長）　前の学校なんかだと、食育とは違うんだけど、夏休み前は合宿等の練習もあるので、全部長を集めて家庭科の教員が夏の水分の取り方を考えようというのは全員に、毎年やっていました。

職務代理）　ちょっと印象ですけど、歳をとってくるから食育というのは大事だなって。こどもが聞いても、え、みたいな。ちょっと取りあえず食べたいというほうが中心なので、なかなか難しいなとは思いますよね。リアリティがないから。何をやるんですか、具体的に何をやるんですかと言われても、なんかそういう通知を出すとかと言っても、こどもには刺さらないだろうし。

諸岡委員）　小学校給食があるところは昼の放送が流れて、放送委員さんが、今日は地場野菜を使ったカレーですみたいな感じで話してくれるんです。あと、よく噛むメニューですとか。そういうので、ちょっとだけ栄養士さんが放送に出てきてくださって、今日はこういうのを使ったよというのを食べながら。食べているから話半分かも分からないですけど、これがそうかと言いながら食べてくれる。早く始まれば、同じものを食べていれば、少しは。

今だって、多分食べているものも、好きなものだけ食べている子もいるし、お母さんが一生懸命に工夫して苦手なものを食べている子もいるかも分からないし。ちょっと体が小さいですもんね。

教育長）　そうですか。

諸岡委員）　なんか言われたんですよね、中郡のこどもは体が小っちゃいよね、みたいな感じで。

吉田委員）　給食の導入が早かった県西地区の学校と練習試合をするとやっぱり大きいです。バランスよく食べていますし、しかもおかわりしているんですよね。だからもう格段に大きくなります。

諸岡委員）　簡単に分からないですけどね。

吉田委員）　部活動で練習試合の時に感じました。

諸岡委員）　感じますよね。

教育長）　前の学校の野球部の話しですが、みんなお代わりしていて、２人前、３人前食べていますよ。ですから、部活の練習の先生はもう食事指導をしていますよね、そもそも。どの部活に行っても、自分の部活動のところの子には食事指導をちゃんとして。

諸岡委員）　クラブチームでも本当にもう、やせないように、毎日体重測定を報告するんですね、メールで。落ちていないかどうか。落ちないようにプラスで食べたりとかして、どんどん大きく。いや、すごい大きい子は大きいし。ちょっとね、難しいですよね。

吉田委員）　まずやっぱり一番は、ちゃんと昼食を食べているかということを確認するということと、やっぱり、生活が荒れていたときは、こどもたちがお弁当を持ってこないですね。パンなんですね、パンとかおにぎり。だからやっぱり荒れていましたね。やっぱりそれは、ご家庭に協力をしてもらって、手作りのものがあるとすごくいいかなと。

職務代理）　小学生は体力とかあるから。でも中学生はやっぱりテーマとかで、先ほどの武沢教育長の、部活のためにはこれが必要だよねとか、何かちょっと違う視点でやったほうがいいかなと思います。

諸岡委員）　興味を持ちやすそうな、身近なね。

職務代理）　そうそう。

教育長）　部長あたりとか、顧問あたりから言うとね。このアメフト部なんかは、授業中にこういうプロテインを摂取するとかね。

諸岡委員）　オーケーだったんですか。

教育長）　監督も飲めと言って。

職務代理）　大きくなればいいというものもないから。質のいいものをバランスよく、というふうに思いました。

鈴木委員）　でも、弁当なんかでも、部活なんかでも、本当ですよね、忙しい人はコンビニか何かで総菜を買ってきて詰め込んでいる感じじゃないかと思うんですよね。

吉田委員）　親がお金を渡していてもそれを使わないで小遣いにして、お昼食べない子もいたりするんですよね。

諸岡委員）　親は渡しているから安心してね、食べているはずだと。

吉田委員）　それは先生がちゃんと見てあげないといけない。

諸岡委員）　こわいですよね。普通にできちゃうんだな。

鈴木委員）　いち早くに。よろしくお願いします。重要課題なので。

教育長）　何かほかにありますでしょうか、よろしいでしょうか。それでは、事務局からお願いします。

教育部長）　次回の教育委員会定例会は、10月15日、木曜日、午前９時30分から、本庁舎４階第１会議室で開催予定です。

なお、午後は、国府小学校を訪問する予定となっております。

教育長）　それでは、以上をもちまして、令和８年度大磯町教育委員会第６回定例会を閉会いたします。お忙しい中、長時間に渡りご審議いただきまして、ありがとうございました。お疲れ様でした。

（閉会）

会議の経過を記載し、その相違ないことを証しここに署名する。

令和８年10月15日

教　　育　　長　　武沢　護

教育長職務代理者　　櫻田　京子

委　　員　　吉田　浩二

委　　員　　鈴木　孝善

委　　員　　諸岡　紀子